

- 中絶禁止法反対！
- ピルを全面的に解禁せよ！

# ネオリブ

発行：中絶禁止法に反対し  
ピル解禁を要求する  
女性解放連合  
発行所：東京都豊島区高田  
1-36-14(502)  
定価：一部50円

## 優生保護法改悪反対、ピル解禁要求

### 1000万人署名始まる♀

優生保護法改悪案は継続審議となり、来春の国会で再び審議されることとなった。5月末の改悪案上程後、様々な反対の論議が出されたが、特に女の側からの改悪反対の声は大きく高まり、デモや討論集会等による意志表示は注目すべきものであった。これは、女がいかにかに、性にまつわる中絶・妊娠によって苦しみや痛みを負ってきたかを物語るものだろう。そして今、国家によって産む産まないを管理されることを拒否し始めたというのである。

私達は、優生保護法改悪はもとより、現行優生保護法及び堕胎罪の存在自体も疑ってみなければならぬ。現行法も中絶規制を唱っており、堕胎罪の適用によって改悪以上の中絶禁止が可能である。改悪案が成立しなくても、中絶禁止のしめつけはいくらでもできるというわけだ。今、かかげなければならぬのは「中絶禁止反対」であり、具体的には改悪反対、現行優生保護法・堕胎罪の撤廃である。

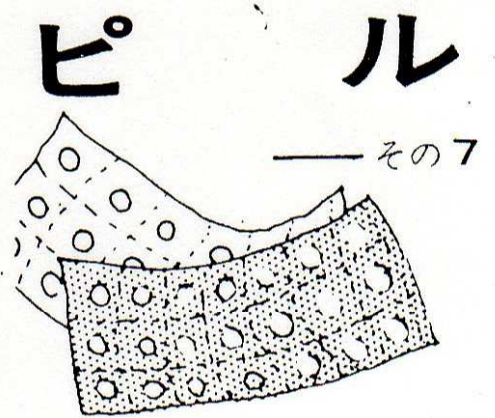
中絶禁止反対すなわち中絶の自由化とともに進める必要があるのは「ピル解禁」である。安全で確実な避妊法を多くの女達が望んでいるのに、知らされないばかりに自らを精神的にも肉体的にも傷つけている現実。それは無責任な『完全な避妊』のための手引き書が「ピル」というものがあるが日本では許可されていない」といとも簡単に書き流し、厚生省が知らぬ存ぜぬでピルについて公開しない、産婦人科医の不勉強など、世の情報が全く女の方に向いていない。

いたためだろう。この現実には女が自らの手で打ち破らなければならぬ。

優生保護法や、その改悪についても知られていない点も多く、今一つ反対運動は盛り上がり欠けるところがある。勤労婦人福祉法のように女の側の反撃体制がまったく整わないうちに成立してしまっただけというところもある。成立した後も問題にしていくのは当然ではあるが、事前の対策、つまり絶対成立させないために運動を広げていく必要がある。またピル解禁は積極的な防ぎとして、女の基本的権利として勝ちとらなければならぬものと思う。

そこで中ピ連では「優生保護法改悪反対・ピル解禁要求の1000万人署名」を開始した。法改悪に対しては、行政的に実際的な働きかけをしなければ効果が薄い。改悪反対運動の一環としてこの署名は大きな意味があると思われる。署名を端初に優生保護法・改悪・ピル等について更に深めつつ広く浸透させていこうというわけである。

この署名は社会労働委員会に送られるが、同委員会では署名数の多いものから審議がおこなわれるので、公けの場で中絶禁止反対ピル解禁についてとりあげられることになり、今まで意識的にかくされてきたピルについての論議が白日のもとにさらされる絶好の機会になると思われる。女の基本的権利である産む産まないの選択権と、そのための中絶・ピルを手にするために、全ての女たちへ、優生保護法反対・ピル解禁要求の1000万人署名を呼びかけます。



#### 血栓症騒動その後

ピルといえば血栓症といわれる程イギリスで出された血栓症問題は全世界を揺るがした。日本もその渦中に投げ込まれ、ピルは危険な薬というデマがピルという言葉を知っている人にゆきわたり、ピル解禁運動に対する拒否反応は根強く残っている。そのイギリスで今年十月二五日、ピルの新製品の販売許可がおりたことが日本の新聞(読売・毎日)にも報道された。一九六八年にイギリスのインマン博士らが、ピルを飲んでいる人のほうが飲まない人より七倍も、血栓症にかかっているということを発表してから、イギリス政府は英

国医薬品安全委員会にピルの安全性について諮問した。同委員会はこれまで数年間にわたって研究調査した結果、ピルには危険にあたる副作用もなく安全だといふ報告を政府に出し、政府はその答申をうけてピルの新製品八種を新たに許可した。

日本では十万人に七〇人近い女達が出産時に死亡しているというのに、十万人に一・五人に血栓症がおこるなどと聞いてピルの安全性を調査するよう命じる程、医薬品に対してきびしい基準をもうけているイギリスがピルの安全性を認めたというのに、医薬品にルーズな日本政府は一体何をしているのか。アメリカでピルの販売許可が米国食品局(FDA)、イギリスはその翌年だった。十年前に日本の政府は日本産婦人科学会にピルについて諮問している。学会からは許可していいという答申が出ているのに、政府はそれをにぎりつぶしてしまった。現在厚生省には、ピルについて政府見解をのべる人はいない。これが「先進国」GNP世界第二位の経済大国日本の実情だ。

#### 訂正とおわび

9号2ページの見出しに、「リブ・インターナショナル」に出席」というのがありましたが「リブ・インターナショナル国際委員」というのが、正しい文章なので、訂正しておいて下さい。

あなたの周りにいる女達へも署名を呼びかけてください！  
同封した署名用紙に氏名、住所押印、カンパ額を記載し、20名署名が集まりましたら、中ピ連へお送り下さい。中ピ連でまとめて社会労働委員会へ送ります。  
(尚、来春の国会へ間に合うよう緊急に集めたいと思っておりますので、ご協力ください。)

# シベリアで

リブ・インターナショナル  
国際委員

萩原 冴子

イルクーツクは赤レンガの建物の多いひっそりした感じの良い町だ。散歩（というか『日本人的』に——つまりセッセと歩き回る事なのだ）してはいる私達に話しかけてきたのは、李さんという北朝鮮の留学生だった。今樺太に住んでいるという両親が日本語を強制された世代である事から、彼も日本語を話せる。彼はブルガリア産のワインを御土産に、ホテルを訪れた。「今日のソ連では、民族問題というものは既に解決し、各民族の自主性の尊重と民族相互の融和が推し進められている」なんとなく耳にはいつてくるそんな言葉の現実面でのくい違いを、あれやこれやととりとめもない話の端々に彼は語ったのである。上等の仕事（上級官僚であるとか私達の目に入る範囲でもインツ—リストやホテルのビューロー等）は、そこが中央アジア地域であろうと、スラブ人種に独占されている事、日常生活の中でも、スラブ人を上として様々な形の差別はある事。「現に、留学生としての私は常に監視される身です。尾行がつくときだつてある。」別段、彼が反ソ感情を持っていてというのではない。ただ大国としてのソ連が北朝鮮に対し「めんどうみてやる」と

いう形になったとき、一人がかかわらされてしまうかなりの（と見えたのである）規制、そしてモンゴリアンとしての被差別状態、それは彼の体験としてあるのだった。彼はまた、私達の部屋（だだっ広いばかりで何もなし、ベッドもお粗末、シャワーしかない）が五千円以上すると聞いて、ソ連人なら、まったく同じ部屋でも五分の一の値段で泊れるのに、とも言った。つまりはソ連の外貨獲得政策、無理矢理入れられてしまうのなんて、負しい私達としては口惜しい限りなのである。

十二時近くまで話しこみ、また明日を約束して彼は帰って行った。私達はナージャやベラのことも考えながら床についた。翌朝、約束の十時を過ぎても彼は来なかった。話をしたのはきのう一日だけだけれど、彼はいいかげんにすっぱかすような人ではないと私達は思った。しかし彼は現われなかった。「感ぐる」ことはやさしい。通過者である私達には、流れ去る「もの」や「ひと」を印象としてくくって行くだけでも目まぐるしいことだ。私自身が「見た」その行為と、何かが現実としてそこにあるのを知ることと距離の大きさもわかる。けれ

ど旅の終りに、再びソ連を通り抜けた後ナホトカから乗った船の中でソ連製映画をみながら私は、「まだまだ違うな」と思っていた。上映されているのは『友情の子午線』——ソ連国民の「発展途上国」に対する豊かな援助と暖い献身の記録だった。ほら、ソ連のおかげでこれらの国はこんなに伸びてきたのです。そして伸びつつあるので、ソ連の助という形が国としてのメンツにのっかっただけの押しつけであるとは言えないだろう。技術の進歩や知識の増加がある国を豊かなものにしていく方向もある。だが押しきっていく「政治」は、ひとりひとりのくらしとはまだまだ遠いところでもまた思ったのである。

リブ・インターナショナルとは

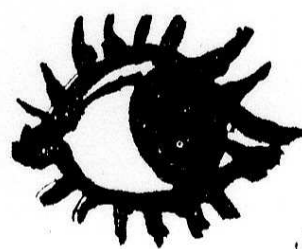
（世界的女性解放のための秘密組織）公然部門の活動家はそう多くはない。

現在、女性に対する差別と抑圧は世界的規模で存在する。経済機構の上から、女性差別を必須とする資本主義諸国はむしろのこと、社会主義諸国においても根は深い。同じ労働をしながらも、女性は早く家に帰って家事をしなければならぬからという理由で労働点数の低い中国。女性の家事労働を軽減するために首相自ら電気釜の開発にとりくむという朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）。（いったい何故女性が家事をしなければ

ばならないのか）中絶やピルについても、時の権力の都合で左右されている有様である。仏・伊では中絶は非法だし、北朝鮮でも社会主義社会建設のため人口増加策をとっており、避妊法は流布していない。中国ではこれが逆だし、日本ではピルが解禁されておらず、中絶も徐々に厳しくなっている。このように、生む生まぬを選択するという女性の基本的権利すら、国家の人口政策で規制されている現状である。

これらを見るにつけても、女性解放は、単なる体制変革のみでは獲ち取れない。勿論、第一の必須条件ではあるが、それを超えるものが必要である。地球規模で抑圧されている人種として、世界的連帯の中から新しい方向を見出そうではないか。そういう動きの中から、リブ・インターは出てきたものである。リブ・インターは男革命司令部の手伝いなどはしない。女の女による、女のための革命をめざし、必要とあらば、将来、世界的武装蜂起をも躊躇しないだろう。

（国際委員の萩原冴子は、未だベールに包まれている東欧の女性の姿を知り、連帯の道を模索すべく、リブ・インター・ジャパンより派遣されたものである。インターポール（国際刑事警察機構）及び警視庁の追求もあり、顔写真は公表しない。旅行記風のものしか発表できないが了承願いたい。）



め

この秋各地の大学祭で一番の呼び物興行となった感のある日活ロマンポルノ。以下は小生の大学祭ポルノ雑感。

まず驚くなかれ、カップルでの観客が大半。仲睦まじく画面を凝視している。何故か可笑しくもないのに場内は常に笑い声絶えず。なんともなごやかなる空気があった。ところで場内は大盛況、大入満員で上映前から小さな会場は熱気に包まれていた。上映作品は天下のブル新聞「朝日」の称賛を得たとかいうコメント付ロマンポルノ『濡れた唇』と『白い指の戯れ』。ロマンポルノ、いわば〇〇推奨優秀作品らしい。何故か一本目は低辺に生きる被圧迫階級、对国家権力という構図がみえみえで、成程、朝日好みの映画なのです。この映画で観客の大爆笑をかったのは、スリの仲間誘われ新入りの女スリが、「最後に頼れるのは自分だけ。自分独り……。」と呟きながらマンションの一室で背広を着せたマネキンの前でスリの練習を勉強していた場面であった。一緒に観ていた友人達はあごがはずれる程笑った後で、「痛感！ ツーカン、ね……」

その結果は男スリの代りに彼

を愛したらしい新入りの女スリが警察に行くことになる。ここで荒木一郎粉する男スリは「出てきたら可愛いがってやりませよ」と顔馴じみの刑事にかけながら云うのである。

二本目は少し年増のコールガールと青年とが人を殺す破目になり東京から逃げ出し警察の手から逃れようとしながら、ますます落ちこんでゆく過程をもう一組の都会行き思想の男女とのからみで描いた作品である。四人の関係は決して明確になることがない。最後までその関係は不透明のままでありそれは次の男の発した言葉に象徴される。「きつと僕の恋人は君なんだよ。君は実際は僕の恋人なんだと思えうだろう」そしてこの言葉は二人の女性それぞれに対して発せられるのである。

ここまで読んで気づかれた人も多いようにポルノ映画であるのにその場面等はあまり印象に残らないのである。ポルノ映画と銘打っている以上肉体が露出される場面は多いのだが、慣れが生じる為か、それとも期待が過度であったのか、小生が鈍感であるためか（知らぬ）。何故か残る場面はない。もっともポルノ映画をみてあの場面が忘れられない等というのも変だろうが。

つまり、どうということはないかったのだ。

# 勤労婦人福祉法 ③

育児休業制度—このことば  
がはじめて、この勤労婦人福祉  
法で登場します。

(育児に関する便宜の供与)

第十一条 事業主は、その雇用  
する勤労婦人について必要に  
応じ、育児休業(事業主が、  
乳児又は幼児を有する勤労婦  
人の申出により、その勤労婦  
人が育児のため一定期間休業  
することを認める措置をい  
う。)の実施その他の育児に  
関する便宜の供与を行なうよ  
うに努めなければならない。

育児休業という、現在、非常  
に女の側から切実な要求として  
出されてきているが、これらの  
要求がでてきたのは、現実の状  
況が保育所が少ない、特にゼロ  
才児保育所は少ないというより  
ほとんど無いに等しいという要  
因に依るものといえる。だが、  
これらの保育所の貧困化から生  
じる要求を、育児休業というこ  
とに直接結びつけてよいもので  
あるうか。

前回述べたこの法律の性格と  
からませつつ、育児休業制(休  
暇)にあらわれる企業(資本)  
の側の意図をみてみよう。育児  
休業制を採用している企業は、  
まだほんのわずかにすぎず、わ  
れわれがよく聞く例としては、  
電々公社などがあげられるが、  
それらの企業か、少数ながらも  
育児休業制度を採用した要因を  
考えてみると、

① 労働力不足のおりから、婦  
人労働力を確保するのに育児  
休業制を考えざるをえない。  
特に能力技術をもつ女をひき  
とめるために。

② 育児時間を一日一定時間与  
えても、育児による突発的な  
休暇が多くなりがちだから、完  
全に働ける状態にして職場に  
もどすほうが効率としてよい。  
③ 保育所をつくるより、個人  
負担で育児をさせるほうが安  
あがり……。

などをあげることが出来る。企  
業にとつて、女・子供の状態を  
考えるより、いかに安くして負  
担の少ないかつ効率のよい労働者  
をつくりだすかが問題であるの  
だ。それに社会的に合理化の動  
きがすすめられているが、育児  
休業がその合理化の一環として  
出されることも考えられるし、  
また、現に育児休業が実質的に  
一時解雇—再雇用という形で、  
「出産・育児退職者再就職制度」  
などに活用されているところも  
あるのだ。こうした形は今後ま  
すますふえていくであろう。そ  
れにソニーでは、企業内託児所  
はパートしか使えないことにな  
っていて、婦人労働者のパート  
化を促進するものとして、企業  
—保育所があり、このことから  
も、技術能力をもったエリート  
女には、育児休業制をもらい、  
その他の女には、企業内託児所

で子供もろともまるがかえて、  
低賃金労働力として使っていこ  
うとする方向をも考えることが  
できるのであって、企業側にと  
っては、育児休業制度は婦人労  
働をつかっているうえで、いろ  
いろに使いわけのできる便利な  
ものであって、今後積極的に利  
用していくであろう。特に、こ  
の法律がその名のおりの福祉  
法であって、何んら規制もなく  
ただ望ましいというだけで、守  
らなくても罰則があるわけでは  
ないものである以上、企業の好  
きなように、本当に企業の利潤  
追求の手段として使われてしま  
うだけであって、女たちの要求  
を決して実現するものではない  
のです。

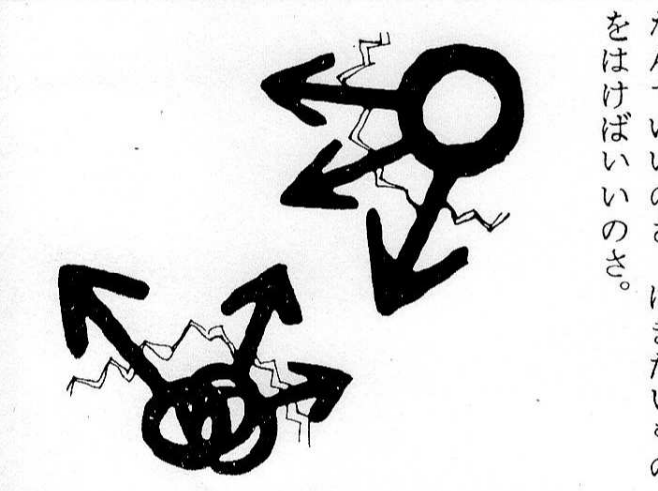
それに現在、労基法できめら  
れている産休も、まもられてい  
るところでも三、四カ月(産後  
六、八週間)だが、これは医学  
的にみて、母体には絶対最低限  
必要というところと、資本の側  
が許せる最大限との合致したと  
ころにきめられているのであ  
って、女の体を考慮して決められ  
たものではなく、絶対的に少な  
い。それなのに、こゝで育児休  
業などということによって、個  
人のレベルへ育児をおしよげる  
ことで、ささやかながらも少し  
ずつかちとってきた母性保護規  
定さえもなしくずしくなくさ  
れてしまうことにもなるであ  
らう。労基法の母性保護規定撤廃  
の動きとも、まさしく関連した  
ものである。

## 言とひと 「スカート」をやめて 「ズボン」をはこう!

思わず「寒い」と言葉をもら  
す。久し振りにスカートをはい  
たのだ。私は「ズボン」(スラ  
ックス、Gパン等を総称して)  
が好きだ。よく会社にズボンを  
はいていく。入社して間もない  
頃に、こんな会話ががあった。  
A「暖かいわね」  
B「暖かいわよ」  
A「あなたはスラックスが似合  
うわね。私はだめだわ」  
B「あまりはかないから似合わ  
ないと思ひ込んでいるんじゃない?  
ない?」

A「私もはきたいんだけど会社  
では何かいけないような気が  
して」  
B「はきたいんだったら、はい  
てみたら」  
A「私も今度から、はいて来よ  
うかしら」  
B「そうこなくちゃ」  
新入社員いわく、「この会社  
ではスラックスをはいていいこ  
とになっているのですか」  
たかがスラックスのことです  
一つの話になる。ズボンをはい

ているとスカートなんか、はき  
たくなくなる。でも安月給では  
ズボンを買うにも限度がある。  
スカートをはいていく日は、な  
んとなく憂うつだ。今年の冬は  
ズボンをはいている友達が多い。  
いい傾向だな、なんて友達と話  
す。アメリカでリブの友達がブ  
ラジャーを焼いてから、その売  
れゆきが落ちたように、スカ  
ートの売れゆきもズボンに譲るだ  
ろう。ファッション界に女が  
くられていくのではなく、女が  
それをつくり、業界を変えてい  
くことになるだろう。つくられ  
てきた女が、もはやつくられま  
いとするとときに、女の反乱がこ  
の社会の根底をゆさぶる。  
「スカートをやめてズボンを  
はこう」は、女の自立の一步。  
ズボンは、なんてはき心地が  
いいのだろう。なんて動きやす  
いのだろう。暖かいのだろう。  
女達へ私から一言  
「スカートなんか、ぬいじゃ  
え、そしてズボンにはき変えよ  
う。」どうしてかって? 理由  
なんていいのさ。はきたいもの  
をはけばいいのさ。



## 大学祭だより

11月は大学祭の多い時期であ  
りました。その中で六つの大学  
では、「ビル」に関する講演会  
が開かれました。学校によって  
様々な反応なり効果があり、全  
体的に見て成功だったと言える  
でしょう。ビルに対する質問を  
はじめ、IUD等の避妊につい  
てや優生保護法に関することな  
ど、活発な意見交換がなされま  
した。日時、参加人数は次のと  
おりでした。

「ネオリブ」定期購読のお知らせ

3日	都立大	50人
22日	東洋大	100人
23日	青山学院女子短大	100人
24日	東京理科大	80人
25日	東京女子大	100人

これをきっかけにいろいろな  
大学において、中ピ連の運動の  
輪が広がります。

※購読料 6ヶ月 500円(送料込み)  
振替口座 東京177972 中ピ連  
※宛先 東京都豊島区高田1-36-14  
新日本マンション502  
中ピ連

経済的理由の削除につづく第二の問題点である「胎児チェック」について思いつくまま書いてみたいと思う。改悪案によって付け加えられる中絶の条件の項目とは「その胎児が重度の精神又は身体の障害の原因となる疾病又は欠陥を有しているおそれが著しいと認められるもの」である。この項目は、現実の問題として個人個人の日常意識の

# 優生保護法〔8〕

## 改悪の問題点

上で、はっきりと否定できない部分が残っているのではないかと考える。しかし異なった状況に生きる個人の様々な感情や考え方と、法律として打出されるこの項目とは全く異質のものである。言い換えれば法律として何らかの文章になって存在すればもうそれは文章通りにしか解釈されず、個人の意志―産む産ま

ない―は全く無視されてしまう可能性があるので。拡大解釈の恐れもある。何行かの文章があるだけで、その時々国家権力の思い通りの解釈が可能となるわけである。冗談じゃない！その思い通りの解釈とは「国家にとつて邪魔者は消せ」という背すじのゾツとするような考え方はないかと思う。とんでもないことで国民と名がついていようと、「私」は「国家」のために生きていくのではなくて他ならぬ「私」のために生きていくのだから。「私」にとつて邪魔者は国家権力だけれど、国家にとつて邪魔者とはいったい誰なのか。まず第一にあげられたのが労働者として能率よく働けない精神病者と身体障害者である。文中には「重度の」という形容詞がついていて、いかにも人の同情をひき納得させるような感じだけれど、実は全く曖昧な言葉で、どの程度を重度とみなすかが問題である。結局、軽度であろうと、数字がちよっとできない程度であろうと、どんな切り捨ててしまおうとしているのでもないか。オモテでは「障害をもって生まれてきた人は一生不幸になられるわけですから……。」と言つて障害者のために思っているかのように誤まかしている。しかしウラでは「日本の経済成長には役にたたくが、かかるのでは、たまらないから、最初から生まれないようにすれば問題は万事解決するのだ」というようなことを口ばして

いるのではないかと想像される。そして全ての障害者を不幸のひと言で片づけて後は知らん顔している。障害者を全て不幸と言うのなら、障害をもたない者は

### 全国の女たちからのたより

(無断転載をお許し下さい)

★(前略)私は新潟で土方をしていました。今ウエストレスを始めて3日たち、消耗しています。東京の女の方たちが何をしているのか、ほとんど知り得ないので、やはり東京、いろんな所の女の方達のことを知っていたいし、おんなの私は動かすにはいられないと感じます。そこで、しばらくそちらからのピラなども手にしておらず、早く手にしたいと、こちらからもピラでも出せるように、と考えます。(中略)それからピルのことはまだ当ってはいないので、友達が当たった所、やはり売ってもらえずことわられたそうです。中ビ連で出した以前のピラに処方箋指示書について書いて有りましたが、それをもう少し詳しく教えていただけませんか。今こんなことでもしなくちゃあピルが手に入らないのは、もうイヤイヤしてしようがありませんが、当然、どんな手に入れないくちああです。早くピルがほしいのです。こちらでも出来るだけやってみるつもりですが、

「ピルについて」

ルの買入” それぞれのピル(商品により)について” など知らせて下さい。ピルについて詳しく調べようがないので、ぶしつけですが、出来るだけ詳しくお願ひします。ピルについて手も足も出ないでいるのは、どうしようもなくなっています。(後略) 新潟 Aさん

★(前略)今、あたしの大学でも、学費値上げ阻止闘争が、おはずかしいことに盛りあがってはいないのですけれど、ともかく学費問題があるわけで、そっちの方にもかかわらざるを得ないので、ともに帝国主義的国家再編の一環としての権力からの暴力的抑圧としてとらえることに何らの疑問もはさまれることはなく、やはり女性解放を叫び、ピルの解禁をいうことと、学費闘争とは私にとって全く違ったものだということが女性解放ということとはあつたというおんなにとつてほんとにギリギリの、絶対的な、叫ばざるを得ないこれがだめなら、次はこれだということはどうしてもできないものだし、あたしにとつてすべての出発点としてあることなのです。(中略)この間

ひとりの男とのかかわりあいというかたちで具体的なひとつの状況が展開されて、予想できなかったことではないにせよ、かなりみじめな結末をとげさせられたということがある(いささか苦汁をなめさせられたというわけで)そのことは、決定的な意味をもってあたしの中に沈みこんだんです。その男のおかげで、これまでいくらか持っていた男(一般)に対する期待、みたいなものが、ほぼ完全に消滅しました。

しかし女同士のコミュニケーションというものが、これまで経験してないため、(ずっと女より男の方が気が合ってたし男の方を信じてきたから)信じられないのです。新しい人間関係の創出ということ、ものすごく望んでいるのに、対オトコ、対オンナともに(もちろん両者は全く違った意味をもって(けれど)はなはだ困難なことのようです。(後略)

東京 工さん

毎日たくさんの方からのたよりをいただき、たいへん返事が遅れておりますが、必ず送りますので、御了承下さい。

### 世界家族計画連盟

#### 中央医学委員会声明文

世界家族計画連盟の中央医学委員会は、世界各国から専門家を集めて討議した結果、次のような結論に達した。この方法は、将来予測できないある種の危険性をもたらし可能性はあるが、

現在のところ、母体の健康を保つための一つの重要な手段であり、今後これを続けて用いることが正当であるという結論に達した。



### 出版案内

「ピルの全貌」100円 近刊  
セミナー講義録  
「医療体制」100円 近刊

### 原稿募集

「ネオリブ」の内容・質拡大の為、ぜひ読者の方から原稿をいただきたいと思ひます。  
またこれからもいろいろな御意見をお願い致します。

★★★★★